

「ヤマノイモの果実(1)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

「ヤマノイモ」という植物がある。「自然薯(じねんじょ)」と言ったほうが有名かもしれない。私は子どもの頃、多摩丘陵の住宅地に住んでいたのですが、家から徒歩数分の丘陵地が、日々の遊び場だった。



ヤマノイモの葉は、特徴的なハート形をしているので、簡単に見分けがつく。蔓性の植物なので、その根元をたどり、慎重に掘ると、細長い根のようなものが出て来る。それが「自然薯」だ。よく「道の駅」なんかで売っている、あの不格好で細長い「芋」である。実は「根」ではなく、「担根体」と呼ばれるものだ。根の近くの茎が、地下に伸びたものらしい。



先日、長らく休園していた、小石川植物園を散策してきた。12月に入り、東京も晩秋の気配になったが、武蔵野台地の東縁に位置する植物園は、まさに東京の

季節をよく表現している植生だと思う。



ヤマノイモは、このような樹木が生い茂った、しかも陽当たりの良い空き地のような場所を好む。植物園内にも、何か所かヤマノイモの一塊が見られる。



ヤマノイモは蔓性で茎が細いので、単独で自立はできない。このように他の植物に頼って繁茂し、時にはその植物をマントのように覆ってしまうこともある。



今の時期、ヤマノイモには特徴的な形状の、金色の果実(実)がついている。私は子どもの頃、このカサカサの果実(蒴果)でよく遊んだ。舌先で少しぬらして、自分の鼻の頭につけるのだ。馬鹿みたいな遊びだが、なぜか友達と夢中になってやった記憶がある。